

平成 21 年度第 1 回 産業技術実用化開発助成事業 採択課題一覧

	事業者名	開始期間	事業名	事業概要
1	株式会社アミンファーマ研究所	H21.5～	尿中アクロレイン化合物の測定法開発とその臨床応用	三大生活習慣病の中で、信頼すべきバイオマーカーが存在しないのは脳梗塞のみである。血液中の細胞障害物質アクロレインと蛋白質の抱合体が初期脳梗塞のバイオマーカーとして有効であることを見出しており、尿中低分子アクロレイン化合物測定キットの開発を実施する。この開発により、簡便に脳梗塞を見つげられることになる。
2	アロカ株式会社	H21.5～	超音波治療照射制御装置(超音波銃)の実用化開発	出生前に子宮内胎児の形態的異常を低侵襲に治療することを実現するために、超音波画像情報からの予測待ち伏せトリガー技術と、三次元的に高い精度でのピンポイント照射が可能な強力集束型超音波照射装置の開発を実施する。この開発により、体外から低侵襲で例えば胎児の心臓低形成症などを予防することができるようになる。
3	協和合金株式会社	H21.5～	変速機に適應する次世代型シンクロナイザーの実用化	変速機に適應する新型シンクロナイザーを開発する。この開発により、従来の手動変速機の快適さを維持したまま、動力伝達効率(燃費)を向上することが出来る。商品化の為に必要な、部品性能・低コスト・低重量を同時に満たし、製造時のエネルギー消費も抑制する技術として、冷間精密板鍛造成形技術を確立する。
4	株式会社グライエンス	H21.5～	レクチンを用いた新規虫歯/歯周病菌予防食品・製剤の開発	う蝕、歯周病といった口腔内感染症の感染率を減少させるためには、歯表面で歯垢を形成するバイオフィルムの産生を抑制することが有効である。食用農産物から抑制効果の高いレクチンを開発し、オーラルケアのための革新的でかつ安全な食品・医薬部外品を実現する。
5	クローバー電子工業株式会社	H21.5～	高機能モバイル機のダウンサイジング化対応部品内蔵型基板の開発	ユビキタス社会を担う高機能で多機能な携帯電話機等のモバイル機器の更なるダウンサイジング化を実現するため、半導体素子や抵抗、コンデンサ等の電子部品をプリント配線基板内部に実装して埋め込むことにより部品内蔵基板を開発する。この開発により限られたスペースの中に従来以上の電子部品を搭載することが可能になる。
6	株式会社サイバー・ソリューションズ	H21.5～	安全でオープンな組込みソフトウェアのライフサイクル管理技術	組込み等のソフトウェアのライフサイクル管理を実現するために、軽量で安全、かつ標準化された通信を利用してネットワーク経由でソフトウェアを管理する技術の開発を実施する。この開発によって、ネットワークソフトウェアの保守性と安全性を大幅に高め、配備後であっても脆弱性の修正や、機能向上を実現することができる。
7	セーレン株式会社	H21.5～	パーソナルオーダー対応一貫システムの開発	お客様の注文を受けてから生産を行うパーソナルオーダー販売において、受注からお客様にお届けするまでの生産工程、特に裁断に関連する工程での合理化・自動化の技術開発を実施する。この開発により無駄な在庫を持たない一貫生産システムを確立することで、省資源・省エネルギーが可能となる。

8	第一実業ビジネス株式会社	H21.5～	レーザ分光による多成分組成分析装置の開発	工業製品の自動外観検査における立体形状不良の高速・高精度検査を実用化するため、光切断法を用いた高速・小型三次元計測ユニットを搭載した自動外観検査装置を開発する。この開発により、検査速度、装置価格、運用面等で製造工程への導入が困難であった三次元検査が工業的に実用可能となり、品質管理に大きく貢献する。
9	高松機械工業株式会社	H21.5～	パイプフレーム構造ベッドを用いた超小型旋盤の開発	加工部品の小型化・高精度化に応じた工作機械の小型化を実現するためにパイプフレーム構造ベッドを用いた超小型旋盤を開発する。この開発により限られたベッドのスペースで熱的・動的剛性を確保しつつ切粉の排出スペースを得るという、相反する課題を克服する。
10	ニッコー株式会社	H21.5～	MEMS ウエハレベル実装に適した LTCC 基板の実用化開発	ウエハレベル実装の利点を活かした小型・低背、低コストで機能性に富んだ MEMS を実現するために、高強度・高靱性で陽極接合可能な多層貫通配線 LTCC 基板の開発を実施する。この開発により広範囲な MEMS を対象に、ウエハレベル実装を大口径ウエハでハンドリングできダイシングした製品をプリント基板に直接実装できることになる。
11	本多電子株式会社	H21.5～	無鉛圧電セラミックス材料の実用化開発	幅広い分野で使用されている圧電セラミックスは、鉛を含有しているため、環境面から使用制限が厳しくなると予想される。そこで、鉛を含有しない無鉛圧電セラミックス材料の実用化開発を実施する。この開発により、圧電セラミックスを使用する製品の環境に対する負荷が軽減可能となり、環境配慮型製品の実現に大きく貢献できることになる。